令和６年度　自己評価及び学校関係者評価書

１．本年度の重点目標　生きていく力の育成　～強い学校・やさしい学校～

２．本年度の学校経営　○確かな学ぶ力を育む「学力向上・教師力向上プラン」
○豊かな心を育む「ハートフルプラン」
○健やかな体を育む「元気はつらつプラン」
○学校・家庭・地域と連携・協働する「家庭・地域連携プラン」

３．自己評価結果に対する学校関係者評価

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	達成状況	具体的な取組	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成					
０１ 子どもたちは、自ら課題を見付け、解決への期待をもって学習している。	B	・主体的・対話的で深い学びのある授業 ・体験型の授業 ・少人数指導 ・ＴＴ ・諸検査 ・授業改善(研究推進) ・専科指導	教職員と子どもの肯定的な回答は８割を超えた一方、保護者の肯定的な回答は５割にとどまる結果となった。令和４年度から、「自ら学び続ける子」を目指す子ども像として、校内研究を推進している。子どもたちの「やってみたい。」「できそうだ。」という思いを紡ぎながら、学習のねらいに到達することができるよう、研鑽を続けている。来年度は、更に研究を進めるとともに、保護者にも子どもたちが頑張る姿をより多く発信していきたい。	A	A
０２ 子どもたちは、自身が方法を選択し、活動を通して判断しながら学習している。	B	・総合的な学習の時間 ・ドリルパーク ・教科横断型授業 ・自由進度学習 ・１人１台端末の活用 ・学習成果発表会	アンケート結果は、０１と同様の傾向となっている。総合的な学習の時間や一部の教科で、自ら課題を設定し、自分で決めた方法で追究する学習を進めている。子どもたちは、教科書やタブレット端末を使いながら、課題解決を目指し、学んでいた。また、学習成果発表会では、どのように発表すると、自分たちの学習成果が伝わるかを考え、工夫する姿が見られた。今後は、「子ども自身が方法を選択する」という点を重視して指導に当たりたい。	A	A
０３ 子どもたちは、子ども同士が考えを交流し、新たな見通しをもって学習している。	B	・さっぽろっ子「学び」のススメ ・図書指導 ・家庭学習の推奨	アンケート結果は、０１，０２と同様の傾向となっている。学習時間には、子どもたちはそれぞれの考えを交流する中で、新しい見方や考え方に気付き、次の学習への意欲を高めている。その気付きを、「もっと知りたい。」「じゃあ、こういう場合はどうかな。」と家庭での学習につながるようにする手立てをとることで、更に学びを深めることになると考える。「さっぽろっ子『学び』のススメ」を活用し、家庭と学校が同じように子どもを認め、励ます関わりができるようにしていきたい。	A	A

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	達成状況	具体的な取組	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成					
０４ 子どもたちは、自ら立てた目標に向かって努力し、困難を乗り越えてやり抜こうとしている。	B	・委員会活動 ・クラブ活動 ・各種行事 ・悩みやいじめに関するアンケート ・相談支援パートナー ・スクールカウンセラー ・不登校対策 ・電話連絡の徹底	子どもの肯定的な回答は８割、教職員と保護者においては７割となっている。また、教職員の中間評価に比べて、肯定的な回答の割合が増えている。運動会や学習成果発表会などの行事を通して、めあてに向かって努力し、達成しようとする姿が見られた。取組の中で、自分たちの姿を振り返る場面を何度も設けることで、「もっと○○したい。」という思いを高め、次の目標をもつことができるように関わってきた成果だと考える。子どもの声を聞き、思いを引き出す関わりを今後も継続したい。	A	A
０５ 子どもたちは、自ら考え、判断して行動している。	B	・あいさつのバトン ・「考え、議論する道徳」教育推進 ・全校読書月間 ・全校読み聞かせ ・朝読書 ・おはなしの会 ・北園のやくそく ・交通安全教室 ・情報モラル教育 ・薬物乱用防止教室	保護者と子どもの肯定的な回答は約９割、教職員においては７割という結果だった。本校では、「あいさつのバトン」という子どもによる自治的な活動が伝統となっている。あいさつの現状を捉え、更にすてきな挨拶が広がるように各学年が工夫して活動を行っている。そういった取組が、子どもの姿に現れた結果だと考える。一方、日常の学校生活において、規範意識が薄れ、学校のルールを守ることができない場面が見られた。きまりがあることの意義を、道徳科の学習を中心に据えた道徳教育を一層充実させていく必要がある。また、昨年度から取り組んだ情報モラル週間の内容を精査し、スマートフォンなど情報機器の扱い方についても指導を継続していきたい。	A	A
０６ 子どもたちは、互いのよさを認め合い、思いやりの心をもって仲間と支え合っている。	A	・教材園、花壇 ・道徳教育 ・登校指導 ・朝の会・帰りの会 ・各種儀式 ・遠足	３者とも肯定的な回答が８割を超えた。当番活動や係活動において、友達と協力し、より良い取組になるように工夫している姿が見られた。高学年においては、委員会やクラブ活動でも同様である。次年度は「AAR サイクル」を各活動にしっかりと位置付け、子どもたちの肯定感を更に高める関わりをしていきたい。	A	A
健やかな体の育成					
０７ 子どもたちは、体育科の学習に進んで取り組んでいる。	A	・体育科の授業改善 ・体育科カリキュラム作成 ・「場」の設営 ・運動会	３者とも肯定的な回答が８割程度である。本校では札幌市が進めている「三間（仲間・時間・空間）に加え、「手間・茶の間」を加えた「五間」で体力向上に努めている。体育科の学習においては、各学年でカリキュラムを揃え、用具の準備やグラウンドのライン整備などに時間をかけないようにして、運動時間を確保する工夫をしている。今後も継続して、子どもたちの体力向上の一助としていきたい。	A	A
０８ 子どもたちは、授業以外で進んで体を動かしてい	A	・秋マッチョ ・運動週間 ・スケート学習 ・スキー学習	３者とも８割前後が肯定的な回答をしている。進んで運動に取り組むことができるように、「秋マッチョ」（縄跳び週間）や「跳び箱週間」などの運動週間を設けている。また、休み時間には自	A	A

る。			由にボールが使えるようにした結果、外遊びをする子が増えた。次年度も、体を動かす楽しさを子どもたちが味わうことができるように工夫していきたい。		
０９ 子どもたちは、自ら健康づくりを図ろうとしている。	B	・性やかぜに関する指導 ・健康観察 ・清掃指導 ・身体計測 ・ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ清掃 ・給食指導 ・給食週間 ・バイキング給食 ・リザーブ給食 ・行事食 ・給食だより	子どもと教職員は８割、保護者は６割が肯定的な回答をしている。本校では、健康的な生活を送ることができるように、栄養教諭による食指導や養護教諭による「性」や「かぜ」の指導などを行っている。日々の生活習慣を見直す時間を設けるなどして家庭との連携を深める方法を考えていきたい。自分や友達の体を大切に思う心情を育み、心と体の健康づくりを進めていきたい。	A	A
信頼される学校の創造					
１０ 学校は、保護者や地域と連携し、安心・安全な学校づくりに努めている。	A	・学校だより ・ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ更新 ・スクールカウンセラー ・児童引取訓練 ・スクールゾーン実行委員会 ・避難訓練 ・保護者アンケート ・いじめ防止基本方針	保護者と教職員の９割程度、子どもの８割程度は肯定的な回答をしている。今年度は「北園小いじめ防止基本方針」を改定し、いじめの未然防止、早期発見につながるようにした。また、いじめ対策会議を月１回開催し、全校の状況を把握し、迅速に対応できるようにしている。また、学校 HP において、子どもたちの様子を掲載したり、「すぐーる」を利用して情報発信をしたりして、本校の教育活動への理解を深められるようにしている。スクールゾーン実行委員会の開催や児童引取訓練などを通して、地域の方や保護者とともに、子どもたちが安心･安全に学校生活を送ることができるよう、努めてきた。コミュニティ・スクールの運用が来年度から開始される。パートナー校と情報を共有して進めていきたい。	A	A
学校関係者 評価委員 による意見	・児童、保護者、教職員のアンケート結果を見ると、三者の回答にズレが生じている項目がある。児童、保護者は、具体的な様子をイメージしやすい項目に、肯定的に答える傾向がある。質問の内容がイメージできるように、説明の仕方を工夫していきたい。 ・保護者アンケートの回答率が７割程度であることを踏まえ、さらに多くの保護者から回答をいただけるとよい。デジタル配信と紙配付、それぞれのよさを活用したい。 ・今の時代、情報モラルに関する学習は、積極的に行う必要がある。 ・健やかな体の育成に係る取組「跳び箱週間」「マット週間」において、使用する器具を子どもの手で準備、片付けさせることも大切ではないか。子ども自らが体験することで、協調性を育てることができる。 ・学ぶ力の育成に係り、家庭学習の目的意識を児童、保護者、教師が共有していく必要があるのではないか。 ・保護者が授業を参観する機会を確保することが大切である。 ・アンケート結果と学校評議員からの意見を学校経営に反映させていくのは、不易である。子どもの意識を育てることが、何よりも大切である。自分たち地域の人間は、子どもたちを応援していく。					